

昭島礼拝 2020/3/15

聖書：マルコ 10:32-45

主題：人に仕える者

賛美：

みなさん、おはようございます。聖書の中で、イエス様の栄光というと、それは神様としての栄光を現しています。神様としての素晴らしい輝き、大いなる力を私たちは想像します。イエス様の栄光とは確かにそのようなものです。それと同時にイエス様の栄光とは、十字架をも意味しています。苦しみ、人々からのけ者にされ、裏切られ、殺されることをも意味しています。神様としての輝き、力強さと同時に、十字架の苦しみの両方がイエス様の栄光です。私たちの感覚としては、神様としての輝き、力強さはあこがれるものですが、十字架の苦しみはできれば欲しくないと感じます。しかしどちらもイエス様の栄光です。今日はイエス様の栄光の座を求める弟子たちの姿が出てきます。このようなことを考えながら見てまいりたいと思います。

今日、読んで頂いた聖書箇所、イエス様は再び十字架と復活を予告されます。この時すでに、イエス様の噂は各地に広まっていた。それはいい噂もあれば、律法学者たちにとっては良く無い噂もありました。律法学者たちからは、イエス様が律法をないがしろにしているように見えていましたし、何よりイエス様がご自分を神の子、旧約聖書で預言されていた救い主だと主張しているのが許せません。それでエルサレムの町では、律法学者たちの間で、イエス様をどう抹殺しようかという話がされていました。マルコ 10:32 でイエス様たちはエルサレムに向かいます。弟子たちは不安になります。今、エルサレムに行ったら、イエス様に良くないことが起こるんじゃないかと思うのです。その

不安はその通りといえば、その通りかもしれません。イエス様は道中でお話になります。私はエルサレムに行きます。そしたらそこで捕らえられて、死刑にされます。しかし三日後によみがえります。あなたがたの不安はまさにその通りになりますと言っているかのようです。しかし今まで、イエス様の神様としての力、奇跡をたくさん見て来た弟子たちは、イエス様が十字架で殺されることがイエス様の栄光、救い主としての使命と結びつけることができません。理解できないのです。

その後、ヤコブとヨハネがイエス様にあるお願いをしにきます。マルコ 10:35 では「ヤコブとヨハネが、イエスのところに来て言った」となっていますが、マタイ 20:20 によりますとヤコブとヨハネのお母さんも一緒にイエス様のところに来て願っているようです。どんなお願いでしょうか。10:37 を読みます。『彼らは言った。「あなたが栄光をお受けになるとき、一人があなたの右に、もう一人が左に座るようにしてください。」』イエス様が栄光をお受けになるとき、ヤコブとヨハネがイエス様の右と左にいるようにしてくださいと願いました。ヤコブとヨハネのイメージとしては、こうですね。これは私の感覚ですが、スター・ウォーズの最後のシーンを思い出します。ダース・ベイダーや帝国軍を追い払って、主人公たちがお姫様から勲章を頂きます。舞台は宮殿のような場所で、周りには一緒に戦った仲間たちがたくさんいます。そしてその中を更新して行って、お姫様から勲章をもらいます。するとお姫様が勲章を受け取った英雄たちをみんなに紹介しますね。英雄たちがみんなの方を振り返ります。するとワーッと歓声が起こります。まさにこのような場面ですね。イエス様が父なる神様の栄光を受ける時、イエス様の両サイドにヤコブとヨハネがいて、一緒に勲章を受け取って、みんなの方を振り返ると、ワーッと歓声が起こる。そのような場面をヤコブとヨハネは想像しているのです。そしてイエス様に願いました。あなたが栄光をお受けになるとき、右と左にいさせてください。

しかし最初に言いましたように、イエス様の栄光とはそのような神様として

の輝き、力強さも意味していますが、同時に十字架も意味しています。だからイエス様は 10:38 でヤコブとヨハネに言います。「あなたがたは、自分が何を求めているのか分かっていません。わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができますか。」たった今、エルサレムに行ったら何が起こるか説明したでしょ？十字架と復活があります。これこそイエス様の栄光です。あなたも同じように私の杯を飲み、バプテスマを受けますか？つまり、十字架に架かりますか？とイエス様はききました。すると彼らはやっぱりまだ十字架のことを理解してないんですね。聖書には書かれていませんが、おそらく満面の笑みで、自信たっぷりにはいいました。「できます。」いや、できないでしょ。と思うのですが。ヤコブとヨハネも多少の覚悟はしていたと思います。でもイエス様が一緒ならどんな苦しみも通り抜けられると思ったのでしょうか。「できます。」と言いました。イエス様が優しいお方です。そんなヤコブとヨハネの信仰を評価して下さっているように見えます。少なくともペテロの時のように、「下がれ。サタン」とは仰いませんでした。「そうだね。確かにあなた方は私の杯を飲み、バプテスマを受けるでしょう。しかし私の右と左に誰がつくのかは、神様がお決めになります」とお応えになりました。

イエス様は続けて弟子たちに言われます。確かに世の中の支配者、権力者は力を振りかざします。そうして世の中を治めます。しかしあなた方の中では、そうではありませんと仰いました。ちょっと長いですが、10:43-45 を読みます。「しかし、あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。 44 あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。 45 人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」世の中で栄光と言ったら、勲章をもらって、みんなからあなたは素晴らしい、力強いお方です。とほめたたえ

られることを意味しているかもしれません。中には、あなたに一生お仕えしますと申し出て、家来になってくれる人もたくさんいるかもしれません。世の中でいう、栄光を受ける人にはそのような家来がたくさんいるかもしれません。しかしイエス様は仰います。あなたがたの間では、栄光を受ける人、偉い人はそのような人ではない。あなたがたの間では、偉い人はみんなに仕える人ですと仰います。偉い人には家来がたくさんできるのではなくて、逆に自分が家来になって、みんなが主人になるようなものと仰います。そしてイエス様も人に仕えるために来ました。まさにその通りですね。今までイエス様はあちらで誰かの病を癒したら、すぐに、他の場所へ行って誰かの病を癒し、そうしたらすぐに、別の場所へ行ってみんなに神の国を教えたりしました。そうして忙しく、人々に仕えてこられました。これまでのマルコの福音書におけるイエス様のお働きそのものが、みんなが主人で、イエス様が家来であるかのように描かれています。そして、これからエルサレムに行けば、イエス様はさらにもっと多くの人のために、多くの人々の罪のために、十字架に架かって死なれるのです。まさしくイエス様はそのお言葉どおり、みんなに仕え、みんなにご自分のいのちを与えられました。だから弟子たちの間でも、栄光を求める者はそのような者でありなさい。と仰います。

こうイエス様がお話されて、弟子たちは納得できたのでしょうか。それは分かりません。ただ福音書を読む限り、イエス様が十字架に架かるまでの間には、よく分からず、葛藤しているようにも見えます。その後、イエス様が復活されて、ペンテコステがあり、弟子たちに聖霊が注がれた時、弟子たちは徐々に理解していったように見えます。それは神様が弟子たちの目を開いて下さって、やっと弟子たちが真理を理解し始めたということでしょう。神様が目を開いて下さるまでは、弟子たちはこの世にあるものだけが、この世の価値観、というより自分の考え方だけが真理だと思っていました。しかし神様に目を開いて頂

いた時に、イエス様の真理が見えてきたのです。そのようなことを象徴しているような出来事が10章の後半にあります。

10:46-52にはバルティマイという目の見えない方が登場します。この人はイエス様が近づくなり大声でイエス様を呼びます。自分では目が見えないので、近づいていけません。必死に大声で呼びました。するとイエス様が声をかけられます。10:51でイエス様は言います。「わたしに何をしてほしいのですか。」するとこの目の見えない人は言います。「先生。目が見えるようにしてください。」するとイエス様は「あなたの信仰があなたを救いました。」と言って、すぐに目が見えるようにしてくださいました。神様のちからによって、目の見えなかった人も見えるようになったのです。目が見えるようになった人は、イエス様のお姿がしっかりと見えるようになったでしょうね。目が見えるようになったので、これからは大声で叫んでイエス様を呼ばなくても、イエス様について行く事ができます。彼はイエス様をほめたたえながら、ついて行きました。

興味深いのは、イエス様はヤコブとヨハネにも、目の見えなかった人にも、同じように問いかけています。「何をしてほしいのですか。(10:36)」「わたしに何をしてほしいのですか。(10:51)」ヤコブとヨハネは、肉体としての目は見えていました。しかしイエス様の本当のお姿を見てはいませんでした。それに対して、目の見えなかった人はどうかと言うと、両方見えていないのです。肉体としての目は見えていません。そしてイエス様の本当のお姿も見えていません。イエス様からすれば、彼らに見てほしいと願っているのは、イエス様の本当のお姿です。肉体としての目が見えているかどうかよりも、もっと大切なイエス様の本当のお姿、神様としての栄光の意味、それをイエス様は見てほしいと願っています。「あなたは何をしたいのか」そうイエス様に問われた時、私たちは素直に、私たちの目を開いて、イエス様の本当のお姿を見せてくださいと願いたいと思います。この方について行きたいと願っているのに、イエス様の本当のお姿が見えていなかったらついて行けないですね。ぜひとも私たちの目

を開いて頂いて、イエス様の本当のお姿を見、そしてイエス様について行きたいと思います。

イエス様の栄光

ヤコブとヨハネの要求

イエス様の栄光の座の右と左に座りたい No2,3 になりたい

イエス様の栄光

十字架 10:33-34 で予告されている

何を求めているか分かっていないと諭す

人に仕える者になりなさい

ヤコブとヨハネ(弟子たち)は人の上に立ちたい

イエス様は人に仕えるために来た

イエス様の弟子も人に仕える者になりなさい

人の上に立ちたいではなく

目を開かせてください

バルティマイ

イエス様に目を開いて頂いた

「わたしに何をしてほしいのですか」 10:51

「何をしてほしいのですか」 10:36

私たちはイエス様に何を求めるだろうか

目を開いて、真理をとらえることができるように

イエス様の真のお姿を捉える事ができるように